

救急現場プロトコル Ver. 1 (案)

目次

救急現場プロトコル使用上の留意事項.....	1
救急現場アルゴリズム.....	11
バイタルサインによる緊急度のめやす（成人）.....	12
疼痛スケール（成人）.....	13
成人の共通観察項目.....	14
症候別 1. 呼吸困難.....	16
症候別 2. 動機.....	17
症候別 3. 意識障害.....	18
症状例 4. けいれん.....	20
症状例 5. 頭痛.....	21
症状例 6. 胸痛（非外傷性）.....	22
症状例 7. 背部痛.....	24
症状例 8. 成人の発熱.....	25
症状例 9. 腹痛.....	26
症状例 10. 嘔気・嘔吐（成人）.....	28
症状例 11. めまい.....	29
症状例 12. しびれ／麻痺.....	30
症状例 13. 腰痛.....	33
症状例 14. 固形物誤飲.....	34
症状例 16. 外傷.....	35
外傷（成人）一次補足因子.....	36
バイタルサインによる緊急度のめやす（小児）.....	38
疼痛スケール（小児）.....	39
小児の共通観察項目.....	40
症状例 P1. 呼吸困難（小児）.....	42
症状例 P2. 動悸（小児）.....	43
症状例 P3. 意識障害（小児）.....	44
症状例 P4. けいれん（小児）.....	46
症状例 P5. 頭痛（小児）.....	47
症状例 P8. 発熱（小児）.....	48
症状例 P9. 腹痛（小児）.....	49

症状例 P10. 嘔気・嘔吐（小児）	51
症状例 P12. しびれ／麻痺（小児）	53
症状例 P13. 腰痛（小児）	55
症状例 P14. 固形物誤飲（小児）	57
症状例 P15. 頭・頸部外傷（小児）	59
症状例 P16. 外傷（小児）	61
外傷（小児）一次補足因子	62
症状例 P17. 下痢（小児）	64

救急現場プロトコル使用上の留意事項

1. 救急現場プロトコルの概要

本プロトコルは、救急現場において、迅速かつ漏れなく傷病者の緊急性を推し量るため、最も緊急性の高い症候および日常で遭遇する頻度の高い症候について、標準的な観察や判断の手順を示したものである。現場で繰り返し用いることにより、様々な病態を有する傷病者の緊急性を的確に判断し、適切な搬送先選定・搬送方法につなげていくことを目的とする。

2. 救急現場プロトコルの構造

1) 緊急度

本プロトコルで判断する緊急度は次の4段階であるが、「赤（緊急）」については、緊急性の高さにより2つのサブカテゴリを設定した。それぞれの定義について表1に示す。

表1 緊急度とその定義

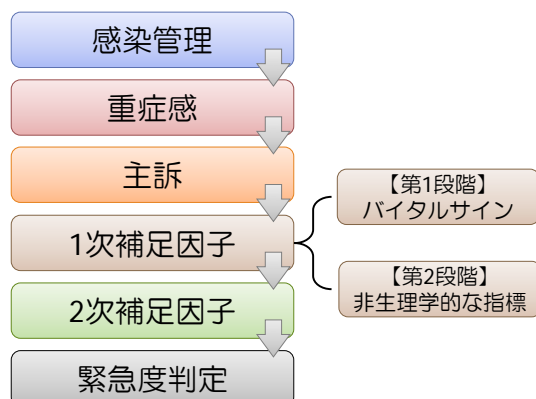
緊急度	定義	救急現場
赤 (緊急)	◆ すでに生理学的に生命危機に瀕している病態。 ◆ 病態が増悪傾向にあり、急激に悪化、急変する可能性のある病態。※痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮。 バイタルサイン異常、ひどい痛み、病態の増悪傾向、急変の可能性を総合的に考える。	【赤1】極めて緊急性が高い病態であるため、緊急に搬送する必要がある病態。
		【赤2】緊急性が高い病態であるため、緊急に搬送する必要がある病態。
黄 (準緊急)	◆ 2時間を目安とした時間経過が生命予後・機能予後に影響を及ぼす病態。 ※痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮	赤ほど緊急性は高くないが、2時間以内を目安とした医療機関への受診が必要な病態。
緑 (低緊急)	◆ 上記には該当しないが、診察が必要な病態。	緑に同じ
白 (非緊急)	◆ 上記に該当せず、医療を必要としない状態。	白に同じ

2) 緊急度判定の過程

緊急度評価のための観察の優先順位は、「重症感」→「バイタルサイン」→「非生理学的な指標（疼痛・出血性素因・受傷機転）」→「症候に特異的な指標（2次補足因子）」の順となる。外傷については、バイタルサインの観察と同じ段階で疼痛の観察をすることとした。

救急現場における緊急度判定の過程とアルゴリズムをしめす。

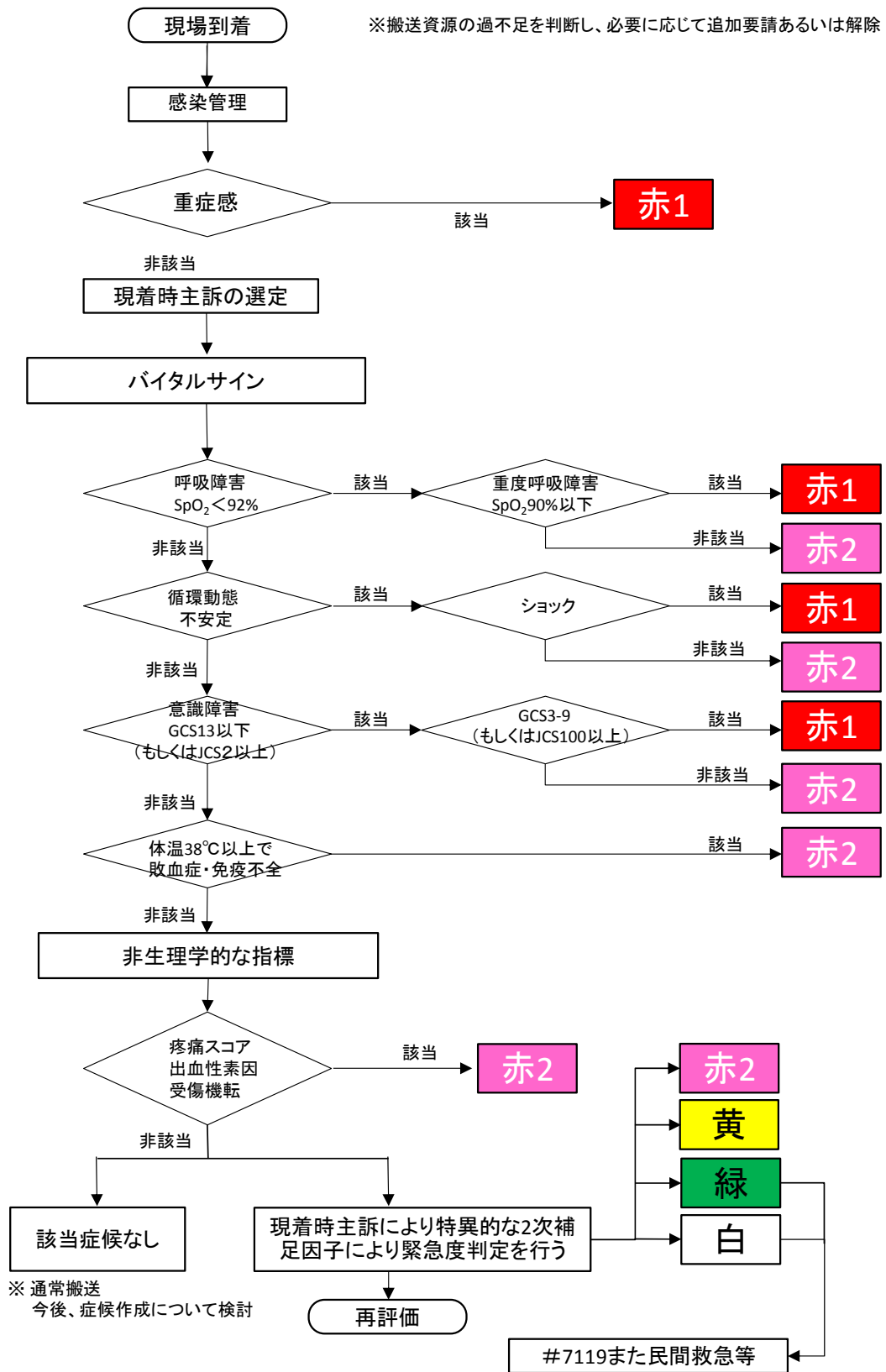
図1 緊急度判定の過程



注)

- 重症感とは、直ちに処置や治療が必要な状態をいい、重症感あり、なしと表現する。
- 1次補足因子には、第1段階のバイタルサイン（呼吸、循環、意識、体温）の補足因子と第2段階の疼痛の強さ、出血性素因、受傷機転の補足因子からなる。第1段階は、傷病者の緊急度判定を行うために、まず最初に適用すべきものである。
- 2次補足因子は、特定の主訴の適応される、傷病者に適切な緊急度が割り当てら

図2 アルゴリズム



3) 緊急度判定の実際

前述の緊急度判定の過程に沿って、緊急度判定の実際についてしめす。

① 感染管理

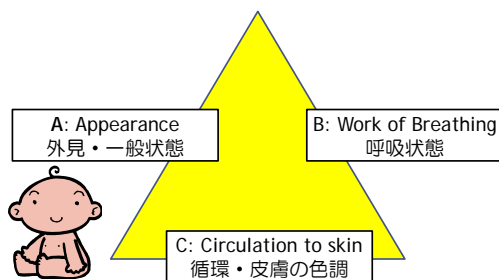
所属する機関の感染防止マニュアルに基づき、適切な感染防護策を実施したうえで、傷病者へ接触する。

② 重症感

傷病者への接触時に、迅速に気道、呼吸、循環、意識をチェックし、10秒程度で「第一印象の重症感」の有無を評価する。小児の場合は、小児初期評価の3要素を適用して、「見た目の重症感」を30秒程度で素早く押し量る。

重症感があり、直ちに処置を開始する必要があると判断された場合には、すぐさま応急処置を実施し、詳細観察は病態の安定化を図った後でよい。また、病態に応じた医療機関の確保を迅速に実施する。

図3 小児の初期評価 (PAT: Pediatric Assessment Triangle)



※以下のような例が該当する。

- ・心停止状態
- ・けいれんが持続している状態
- ・呼吸停止状態
- ・重症外傷（ショックを伴うもの）
- ・重度の呼吸障害（過度の呼吸努力のために疲労した状態）
- ・意識レベル（JCS100～300、GCS3～8）

③ 主訴の選定

傷病者自身から提供される症状や外傷、病気の状態、あるいは、救急隊員による他覚所見などから、最も緊急度に影響を及ぼしていると考えられる主訴（症候）を選択する。

④ バイタルサイン（1次補足因子の第1段階）と非生理学的な指標（1次補足因子の第2段階）による傷病者の観察

バイタルサインの測定およびバイタルサインにかかわる観察と評価を実施する。

バイタルサインの異常により緊急度「赤」と判断した場合は、バイタルサインの安定化を図りつつ、適切な医療機関搬送を実施する。

なお、バイタルサインの観察において、呼吸数、脈拍数、血圧、意識レベル等の定量化された指標のみで緊急度を決定するのではなく、それぞれに関連した観察項目も同時に観察し、総合的に評価した上で緊急度を決定する必要がある。

以下にバイタルサインと緊急度の目安についてしめす。

表2 呼吸に関連した指標による緊急度の目安（成人）

呼吸	
赤1	SpO ₂ 90%未満 呼吸回数10回/分未満または30回/分以上
赤2	SpO ₂ 90%以上92%未満
黄	SpO ₂ 92%以上94%未満

表3 循環に関連した指標による緊急度の目安（成人）

循環	
赤1	収縮期血圧90mmHg以下または200mmHg以上 心拍数120回/分または50回/分未満

表4 意識に関連した指標による緊急度の目安（成人・小児）

意識	
赤1	GCS3-8、JCS100-300
赤2	GCS9-13、JCS2-30
黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)

表5 呼吸に関連した指標による緊急度の目安（小児）

	(呼吸回数:回/分)						
	赤1 (未満)	赤2 (以上-未満)	黄 (以上-未満)	緑 (以上-以下)	黄 (より大きく-以下)	赤2 (より大きく-以下)	赤1 (より大きい)
3か月未満	<10	10~20	20~30	30~60	60~70	70~80	>80
3か月以上6か月未満	<10	10~20	20~30	30~60	60~70	70~80	>80
6か月以上1歳未満	<10	10~17	17~25	25~45	45~55	55~60	>60
1歳以上3歳未満	<10	10~15	15~20	20~30	30~35	35~40	>40
3歳以上6歳未満	<8	8~12	12~16	16~24	24~28	28~32	>32
6歳以上10歳未満	<8	8~10	10~14	14~20	20~24	24~26	>26
10歳以上	<10						>=30

表6 循環に関連した指標による緊急度の目安（小児）

	(心拍数:回/分)						
	赤1 (未満)	赤2 (以上-未満)	黄 (以上-未満)	緑 (以上-以下)	黄 (より大きく-以下)	赤2 (より大きく-以下)	赤1 (より大きい)
3か月未満	<40	40~65	65~90	90~180	180~205	205~230	>230
3か月以上6か月未満	<40	40~63	63~80	80~160	160~180	180~210	>210
6か月以上1歳未満	<40	40~60	60~80	80~140	140~160	169~180	>180
1歳以上3歳未満	<40	40~58	58~75	75~130	130~145	145~165	>165
3歳以上6歳未満	<40	40~55	55~70	70~110	110~125	125~140	>140
6歳以上10歳未満	<30	30~45	45~60	60~90	90~105	105~120	>120
10歳以上	<50						>=120

表7 体温に関連した指標による緊急度の目安（小児）

	赤2	黄
4か月未満	36.0°C未満 38.0°C以上	/
4か月以上	32.0°C未満	32.0°C以上 36.0°C以下

バイタルサインの異常に該当しない場合は、非生理学的指標（疼痛、出血性素因、受傷機転等）による緊急度の評価を実施する。

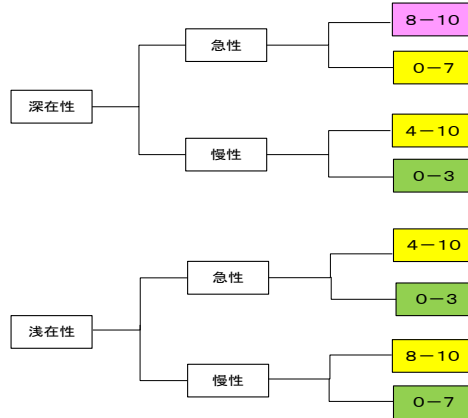
【疼痛】 最初に行うバイタルサインの確認で、傷病者の緊急度が赤1または赤2に判定されなかった場合には、疼痛の評価が緊急度判定に重要な役割をもつ。迅速に重篤な傷病の症状を同定し、また症状コントロールを効果的に行うことを目的として、疼痛の強さの評価を行う。

一般的には、これまでに経験したことがないような最悪の痛みを10として、疼痛の強さ、部位、持続期間により分類を行う。

表8 疼痛の分類

分類	説明
深在性疼痛	体腔や臓器に由来し、生命または四肢を失う恐れのある疾患に関連している可能性がある疼痛
浅在性疼痛	危険な疾患との区別がしやすい、皮膚、軟部組織、筋骨格系や体表臓器由来の疼痛
急性疼痛	新たに出現した疼痛であり、慢性疼痛よりも危険な状態であると（診断のための精密検査を行う前に）診断される可能性が高い疼痛で
慢性疼痛	同じパターンの症状を示す。周知の持続性もしくは反復性の等打つう症候群

図4 疼痛による緊急度

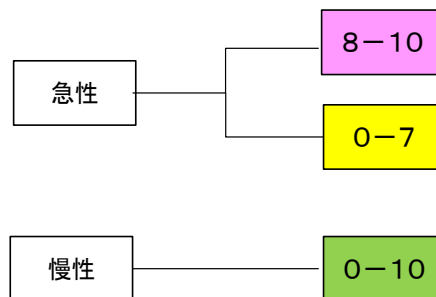


また、小児の疼痛評価については、年齢や発達の程度により正確性に差があるため、発達段階に応じた適切なスケールを用いるべきである。特に乳幼児や年少児では疼痛スケールの有用性と信頼度は低いため、スケールの使用にあたっては、地域で十分に協議の上、その運用について決めることが望ましい。

参考1 疼痛の分類（小児）

分類	説明
急性疼痛	新たに出現した疼痛であり、慢性疼痛よりも危険な状態であると（診断のための精密検査を行う前に）診断される可能性が高い疼痛
慢性疼痛	同じようなパターンで繰り返される疼痛症候群。

参考2 疼痛による緊急度（小児）



参考3 乳幼児、未就学児の疼痛スケール（FLACC スケール）

カテゴリ	0	1	2
表情	表情の異常はなし。または、笑顔である。	時々顔をゆがめたり、しかめ面をしている。視線が合わない。周囲に関心をもたない。	頻回または持続的に顔を震わせている。歯を食いしばっている。
足の動き	正常な姿勢で、落ち着いている。	落ち着かない、じっとしていない、ぴんと張っている。	蹴る動作をしたり足を縮こませたりしている。
活動性	おとなしく横になっている。正常な姿勢、容易に動くことができる。	身もだえしている。前後（左右）に体を動かしている。緊張状態。	弓状に反り返っている。硬直または痙攣している。
鳴き声	泣いていない。（起きてるか眠っている）	うめき声を出す、または、しくしく泣いている、時々苦痛を訴える。	泣き続けている、悲鳴を上げている、または、むせび泣いている、頻回に苦痛を訴える。
あやしやすさ	満足そうに落ち着いている。	時々触れてあげたり、抱きしめてあげたり、話しかけてあげたり、気を紛らわすことで安心する。	あやせない、苦痛を取り除けない。

※乳児や幼児等の急性疼痛を行動観察により評価するツールで、傷病者を観察し、すべてのカテゴリについて合計しスコアを算出する。

【出血性素因】出血性素因とは、先天性出血性疾患患者や凝固因子欠乏症患者、抗凝固剤服用患者等、易出血状態の背景を有していることをいう。重度または中等度の出血を認める出血性素因のある傷病者へは、迅速に凝固因子の補充を必要とすることが多く、これらの背景を持つ傷病者は大量出血の危険性が高い。

【受傷機転】外傷に関連した創傷、症状、主訴のある傷病者に対して確認する。

受傷機転により、安定している状態の傷病者であっても、緊急度が高くなる場合がある。高リスク受傷機転の傷病者は緊急度「赤2」と判断する。例を以下にしめす。

表9 高リスク受傷機転

赤2	同乗者の死亡した車両事故
	車外に放出された車両事故
	車の高度な損傷を認める車両事故
	車に轢かれた歩行者・自転車事故
	5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
	運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
	高所からの墜落(6m以上または3階以上を目安)
	体幹部が挟まれた 機械器具に巻き込まれた

※小児：高所からの墜落(身長2～3倍程度の高さ)

⑤ 症候に特異的な指標（2次補足因子）による観察

重症感、バイタイルサイン、非生理学的指標による観察において、緊急度が決定されない場合に、症候に特異的な指標による観察を実施する。

例えば、嘔気嘔吐のプロトコル使用時に活用される「脱水症」の指標がこれにあたる。

⑥ 緊急度判定

以上の手順により、緊急度の評価を実施し決定する。

しかし、現場活動中にも傷病者の病態が変化することがあるため、緊急度評価は1回で終わることなく、適時緊急度の再評価を実施し、それぞれの時点における緊急度について記録しておく。

3. 小児用プロトコルについて

小児に特化したプロトコルについては、概ね15歳以下を対象とする。

また、小児の疼痛スケールについて、特に、乳幼児や年少児では、疼痛スケールの有用性と信頼度は低い。プロトコル上、小児用疼痛スケールを表示しているが、その使用にあたっては、地域のメディカルコントロール協議会等と調整のうえ、その運用について決定することが望ましい。

4. プロトコル運用上の留意点について

救急現場プロトコルの策定は、近年の救急需要の増大と供給の需給バランスの不均衡による現場活動時間の延伸等に対し、緊急性の高い傷病者を優先して搬送するための仕組みづくりが喫緊の課題となったことから、先行する医療現場における基準等（CPAS¹、JTAS²、重症度・緊急度判断基準³、JPTEC⁴）を参考に、平成23年から消防庁が設置した検討会⁵において検討を進めてきたものである。

平成25年度は、平成24年度に実施した救急現場プロトコル Ver.0 の実証検証を経て、さらに改訂を重ねた救急現場プロトコル Ve.1 を策定した。

本プロトコルを運用するにあたっては、地域のメディカルコントロール協議会の統括のもと、消防機関、医療機関、行政、市民等、関係機関により、その運用について十分協議したうえで、地域の実情に応じた最適な活用がなされることが望まれる。

¹ CPAS : The Canadian Prehospital Acuity Scale カナダのプレホスピタルにおける緊急度基準

² JTAS : Japan Triage and Acuity Scale わが国の病院内における緊急度判定支援システム

³ 救急搬送における緊急度・重症度基準作成委員会作成（平成15年度救急振興財団）

⁴ JPTEC : Japan Prehospital Trauma Evaluation Care わが国の外傷病院前救護ガイドライン

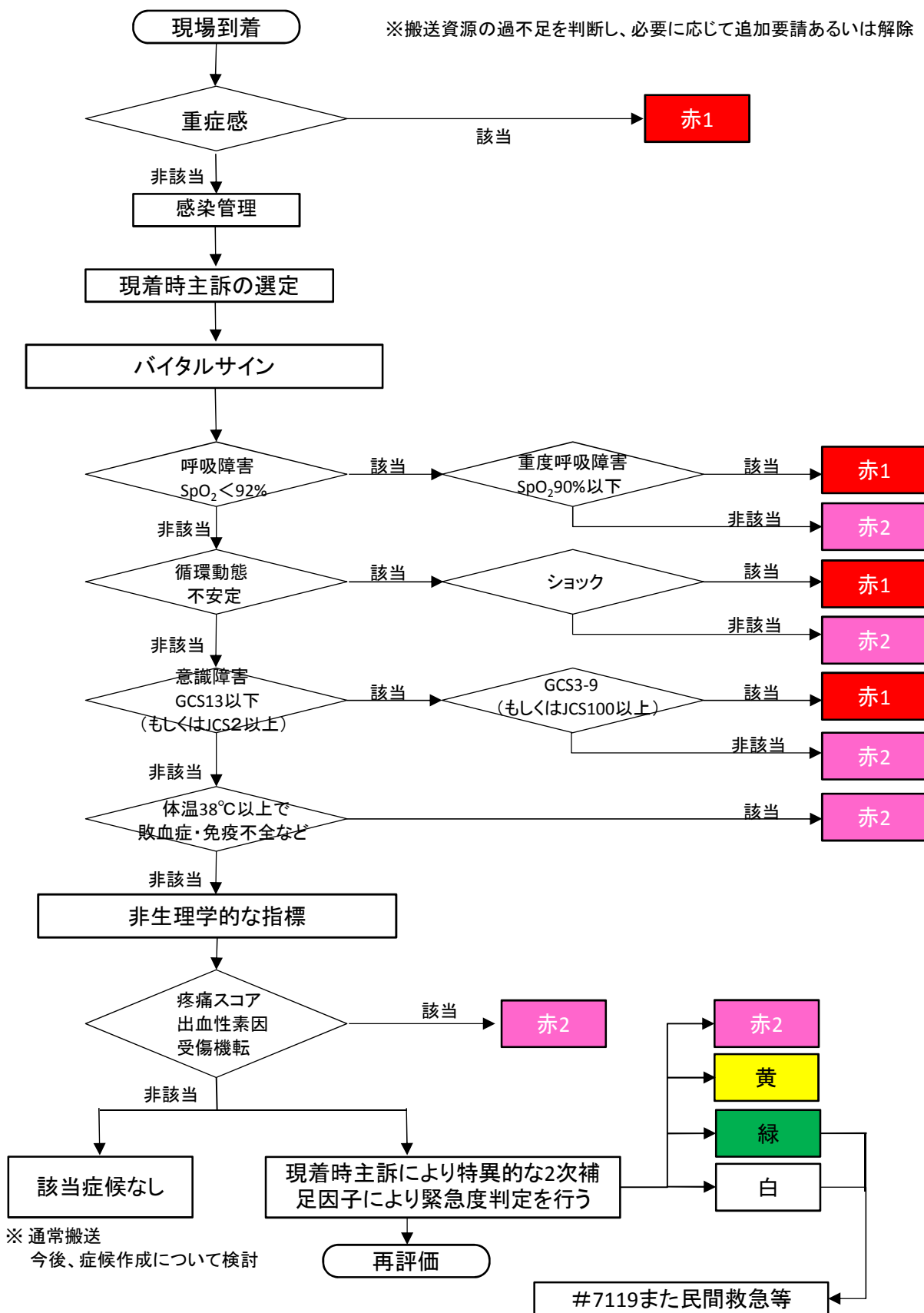
⁵ 平成23年度社会全体で共有する緊急度判定（トリアージ）体系のあり方検討会

平成24年度緊急度判定体系実証検証事業

平成25年度社会全体で共有する緊急度判定体系に関する検討会

【救急現場アルゴリズム】

※搬送資源の過不足を判断し、必要に応じて追加要請あるいは解除



バイタルサインによる緊急度のめやす(成人)

※バイタルサインは、緊急度判定にあたり、傷病者の身体観察所見結果を補完する情報として取り扱う。

呼吸	
赤1	SpO ₂ 90%未満 呼吸回数10回/分未満または30回/分以上
赤2	SpO ₂ 90%以上92%未満
黄	SpO ₂ 92%以上94%未満

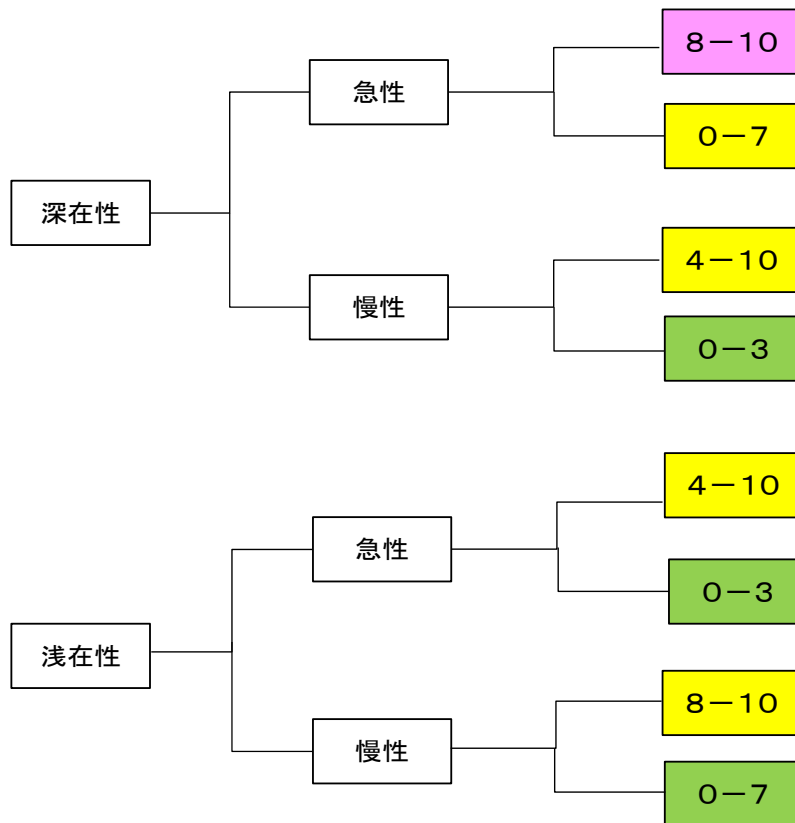
循環	
赤1	収縮期血圧90mmHg以下または200mmHg以上 心拍数120回/分または50回/分未満

意識	
赤1	GCS3-8、JCS100-300
赤2	GCS9-13、JCS2-30
黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)

発熱	
38.0℃以上を発熱とするが、随伴症状等により緊急度に変動あり	

疼痛スケール(成人)

痛みがない状態を0として、今までにない最悪の痛みを10とした場合の痛みの程度を表現してもらう。



【深在性疼痛】

体腔や臓器に由来する生命または四肢を失う恐れのある疾患に関連している可能性がある疼痛

【浅在性疼痛】

危険な疾患との区別がしやすい、皮膚、軟部組織、筋骨格や体表臓器由来の疼痛

【急性疼痛】

新たに出現した疼痛であり、慢性疼痛よりも危険な状態であると診断される可能性が高い疼痛

【慢性疼痛】

同じパターンの症状を示す、周知の持続性もしくは反復性の疼痛症候群

成人の共通観察項目

呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む) (急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。(特にその患者の通常の値とは異なっている場合)
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態
疼痛	赤2	深在性・急性(スコア8~10)
	黄	深在性・慢性(スコア4~10)
	黄	浅在性・急性(スコア4~10)
	黄	浅在性・慢性(スコア8~10)
	黄	深在性・急性(スコア0~7)
	緑	深在性・慢性(スコア0~3)
	緑	浅在性・急性(スコア0~3)
	緑	浅在性・慢性(スコア0~7)

受傷機転	赤2	同乗者の死亡した車両事故
	赤2	車外に放出された車両事故
	赤2	車の高度な損傷を認める車両事故
	赤2	車に横かれた歩行者・自転車事故
	赤2	5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
	赤2	運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
	赤2	高所からの墜落(6m以上または3階以上を目安)
	赤2	体幹部が挟まれた
	赤2	機械器具に巻き込まれた
	判定なし	該当なし
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎
	赤2	多量の性器出血
	赤2	腸腰筋および臀部
	赤2	四肢のコンパートメント症候群
	赤2	骨折および脱臼
	赤2	深い裂創・挫創
	赤2	その他の止血困難な状態
	黄	鼻腔(鼻出血)
	黄	口腔(歯肉を含む)
	黄	関節(関節血腫)
	黄	月経過多
	黄	擦過傷および浅い裂創・挫創
	判定なし	該当なし

症候に特異的な観察項目: 嘔気嘔吐、下痢等に使用(成人・小児共通)

脱水症	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤2	口腔・舌の乾燥
	赤2	ツルゴール(皮膚の張り・弾力)の減少や皮膚乾燥
	赤2	尿量減少
	黄	口渇感の増大(バイタルサイン正常)
	黄	濃縮尿の症状(バイタルサイン正常)
	黄	水分摂取量の減少(バイタルサイン正常)
	黄	経口摂取困難
	判定なし	該当なし

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

1	呼吸困難
症状例	「息が苦しい」、「呼吸が苦しい」、「息苦しい」、「肩で息をしている」、「息ができない」、「ゼーゼーいつている」、「ヒューヒューいつている」、「息をするときに音がする」、「痰(たん)がからんだような音がする」、「喘息なんですけど…」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である 場合. 特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	緑	息切れ、苦痛のある症状は認めない
特異項目	赤2	起座呼吸
特異項目	赤2	著明な喘鳴
特異項目	赤2	胸痛
特異項目	赤2	喀血(概ね100ml以上)
特異項目	赤2	著明な浮腫
特異項目	赤2	広範囲湿性ラ音・乾性ラ音
特異項目	赤2	腎不全の人工透析治療中
特異項目	赤2	心筋梗塞、弁膜症、心筋症の治療中

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

2	動悸
症状例	「ドキドキする」、「動悸がする」、「脈が速い」、「脈がとぶ」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし	バイタルサイン正常	
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新た出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	心原性の胸痛
特異項目	赤2	致死性不整脈の病歴
特異項目	黄	急性発症、現在も持続している状態
特異項目	緑	動悸の既往、現在は軽快している状態
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

3	意識障害
症状例	「反応がない」、「意識がないようだ」、「変なことを言う」、「うわごとを言っている」、「いつもと様子が違う」、「気を失った」、「気を失いかけた」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である 場合. 特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに表示した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

受傷機転	赤2	同乗者の死亡した車両事故
	赤2	車外に放出された車両事故
	赤2	車の高度な損傷を認める車両事故
	赤2	車に横かれた歩行者・自転車事故
	赤2	5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
	赤2	運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
	赤2	高所からの墜落(6m以上または3階以上を目安)
	赤2	体幹部が挟まれた
	赤2	機械器具に巻き込まれた
	判定なし	該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	高度脱水(ショック状態を呈す)
特異項目	赤2	低血糖症状がある場合
特異項目	赤2	不明の薬物
特異項目	赤2	逃走の恐れがあるまたは安全が確保できない状態
特異項目	赤2	自殺企図または明確な計画がある
特異項目	赤2	項部硬直
特異項目	赤2	頭痛
特異項目	赤2	嘔吐
特異項目	赤2	低酸素環境
特異項目	赤2	高温/低温環境
特異項目	赤2	毒性のある原因物質(毒物・医薬品(強酸・強アルカリ・石油製品・青酸化合物)・覚醒剤・麻薬・毒性のある植物・農薬・家庭用品(防虫剤・殺鼠剤等)・有毒ガス)
特異項目	黄	自殺念慮はあるが具体的計画のないもの
特異項目	緑	薬物過量摂取
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

4	けいれん
症状例	「ひきつけ」、「てんかん」、「がたがた震えている」、「泡を吹いている」、「白目をむいている」、「けいれんを起こしている」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	該当なし
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに表示した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし	該当なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	痙攣持続状態
特異項目	赤2	痙攣停止直後の状態
特異項目	黄	症状軽快、意識レベル正常
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

5	頭痛
症状例	「頭が痛い」、「後頭部が痛い」、「頭痛がするとあって倒れた」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし	バイタルサイン正常	
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新た出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	深在性:慢性(スコア4~10)
	黄	深在性:急性(スコア0~7)
	緑	深在性:慢性(スコア0~3)
	判定なし	(該当なし)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	突然発症、激しい、これまでで最悪の頭痛
特異項目	赤2	視力障害
特異項目	赤2	視力障害および眼の疼痛
特異項目	緑	慢性・再発性の頭痛
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

6	胸痛(非外傷性)
症状例	「胸が痛い」、「胸が苦しい」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに表示した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	深在性:慢性(スコア4~10)
	黄	浅在性:急性(スコア4~10)
	黄	浅在性:慢性(スコア8~10)
	黄	深在性:急性(スコア0~7)
	緑	深在性:慢性(スコア0~3)
	緑	浅在性:急性(スコア0~3)
	緑	浅在性:慢性(スコア0~7)
	判定なし	(該当なし)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	胸痛(心原性)
特異項目	赤2	他の重篤な胸痛(裂ける・引裂かれる感じ)
特異項目	赤2	20分以上続く胸部痛・絞扼痛
特異項目	赤2	背部の激痛
特異項目	赤2	心電図上ST-T変化
特異項目	赤2	心電図上の不整脈(多源性/多発性/連発PVC・RonT・VT等)
特異項目	赤2	血圧の左右差
特異項目	緑	胸痛(非心原性)

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

7	背部痛
症状例	「背中が痛い」、「背骨が痛い」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	深在性:慢性(スコア4~10)
	黄	深在性:急性(スコア0~7)
	緑	深在性:慢性(スコア0~3)
判定なし	(該当なし)	

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状
特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状および直腸膀胱障害
特異項目	緑	腰背部痛
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

8	成人の発熱
症状例	「熱が出た」、「悪寒がする」、「震えている」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合. 特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新に出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	点状出血
------	----	------

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

9	腹痛
症状例	「おなかが痛い」、「みぞおちが痛い」、「下腹が痛い」、「わき腹が痛い」、「おなかが張る」、「足の付け根が痛い」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新た出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	深在性:慢性(スコア4~10)
	黄	深在性:急性(スコア0~7)
	緑	深在性:慢性(スコア0~3)
	判定なし	(該当なし)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	高度脱水(ショック状態を呈す)
特異項目	赤2	腹壁緊張または圧痛
特異項目	赤2	腹膜刺激症状
特異項目	赤2	高度貧血
特異項目	赤2	グル音消失
特異項目	赤2	有響性金属性グル音
特異項目	赤2	妊娠の可能性あるいは人工妊娠中絶後
特異項目	赤2	吐血
特異項目	赤2	腹部の異常膨隆
特異項目	赤2	頻回の嘔吐
特異項目	緑	慢性の軽度腹痛
特異項目	緑	慢性の軽度側腹部痛
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

10	嘔気・嘔吐(成人)	
症状例	「吐いた」、「吐き気」など	
大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新た出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	活動性の多量出血
特異項目	黄	コーヒー残渣様吐物・下血
特異項目	黄	繰り返す嘔吐
特異項目	緑	慢性的な嘔吐・嘔気(バイタルサイン正常)
脱水症	赤2	口腔・舌の乾燥
	赤2	ツルゴール(皮膚の張り・弾力)の減少や皮膚乾燥
	赤2	尿量減少
	黄	口渇感の増大(バイタルサイン正常)
	黄	濃縮尿の症状(バイタルサイン正常)
	黄	水分摂取量の減少(バイタルサイン正常)
	黄	経口摂取困難
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

11	めまい
症状例	「めまい」、「目が回る」、「めまいがする」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	頭位と関係なし
特異項目	赤2	新規発症のリズム障害、不整脈および(または)脈拍数の変化
特異項目	赤2	前駆症状を認めないもの
特異項目	赤2	労作時発症
特異項目	赤2	発症<3時間
特異項目	黄	頭位めまい症、他に神経症状を認めない
特異項目	黄	前駆症状を伴うもの、または急な体位変換に伴うもの
特異項目	緑	バイタルサインは正常、症状は軽快

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

12	しびれ/麻痺
症状例	「手足がしびれる」、「手足の感覚がおかしい」、「手足がマヒしている」、「手足が動かない」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新た出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	浅在性:急性(スコア4~10)
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎
	赤2	多量の性器出血
	赤2	腸腰筋および臀部
	赤2	四肢のコンパートメント症候群
	赤2	骨折および脱臼
	赤2	深い裂創・挫創
	赤2	その他の止血困難な状態
	黄	鼻腔(鼻出血)
	黄	口腔(歯肉を含む)
	黄	関節(関節血腫)
	黄	月経過多
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創
	判定なし	該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	発症<3時間
特異項目	黄	発症>3時間または症状軽快
特異項目	黄	新たに発症した知覚麻痺・知覚異常
特異項目	緑	慢性的な知覚麻痺・知覚異常
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

13	腰痛
症状例	「腰が痛い」、「ぎっくり腰」、「腰痛」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である 場合. 特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに表示した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性:急性(スコア8~10)
	黄	深在性:慢性(スコア4~10)
	黄	深在性:急性(スコア0~7)
	緑	深在性:慢性(スコア0~3)
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎
	赤2	多量の性器出血
	赤2	腸腰筋および臀部
	赤2	四肢のコンパートメント症候群
	赤2	骨折および脱臼
	赤2	深い裂創・挫創
	赤2	その他の止血困難な状態
	黄	鼻腔(鼻出血)
	黄	口腔(歯肉を含む)
	黄	関節(関節血腫)
	黄	月経過多
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創
	判定なし	該当なし
	受傷機転	赤2
赤2		車外に放出された車両事故
赤2		車の高度な損傷を認める車両事故
赤2		車に横かれた歩行者・自転車事故
赤2		5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
赤2		運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
赤2		高所からの墜落(6m以上または3階以上を目安)
赤2		体幹部が挟まれた
赤2		機械器具に巻き込まれた
判定なし		該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状
特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状と直腸膀胱障害
特異項目	緑	腰背部痛
特異項目	緑	腰背部・脊椎外傷、軽度の深在性疼痛
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

14	固形物誤飲
症状例	「何か固形物を飲み込んだ」、「食べ物のがどにつかえた」、「のどにひっかかっている・取れない」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	吸気性喘鳴
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合。特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし		
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態。(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	深在性・急性(スコア8~10)
	黄	浅在性・急性(スコア4~10)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	流涎または吸気性喘鳴
特異項目	赤2	嘔声と嚥下障害
特異項目	黄	持続する嘔吐
特異項目	緑	嚥下・呼吸の問題なし

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

16		外傷
大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	上気道閉塞(あえぎ呼吸・陥没呼吸・シーソー呼吸等含む)
	赤1	補助呼吸が必要
	赤1	呼吸音の左右差
	赤1	異常呼吸(中枢性呼吸異常・呼吸様式の異常等)
	赤2	とぎれとぎれの会話
	赤2	増悪する吸気性喘鳴
	黄	呼吸苦の訴え
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸(増悪なし)
	黄	吸気性喘鳴(増悪なし)
	判定なし	(該当なし)
	循環	赤1
赤1		起立性失神(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状とともに失神したもの)
赤2		起立性低血圧(病歴で確認されたものを含む)(急に立ち上がった際に、ふらつき・めまい等の症状をおこしたもの)
赤2		坐位・立位での失神様症状
赤2		低血圧の疑い(正常血圧や患者の予想される血圧よりも低い場合)
黄		バイタルサインが正常の上限または下限値である場合. 特にその患者の通常の値とは異なっている場合
判定なし		バイタルサイン正常
意識	赤1	舌根沈下
	赤1	持続する痙攣
	赤1	意識レベルが次第に増悪するもの
	赤2	急に出現した短期記憶の新たな障害
	赤2	急に出現した行動の変容
	黄	外傷に先行する失神
	黄	失神の既往歴(外傷に先行する失神かどうか不明な場合)
	黄	新たに出現した意識異常(GCS14またはJCS1)
	緑	慢性的な意識異常(GCS14またはJCS1)
	判定なし	
発熱	赤2	発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、化学療法またはステロイドを含む免疫抑制剤投与中)
	赤2	発熱があり、かつ、心拍数>90またはRR>20
	黄	発熱があり具合悪そうな状態(紅潮、傾眠傾向、不安・不穏状態)
	緑	発熱があるが苦痛なく落ち着いた状態

【1次補足因子（第2段階）】第1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

受傷部位		緊急度	観察内容		
共通	外傷共通	赤2	頭部、顔面（目）、頸部、胸部、腹部穿透外傷（銃創、刺創、杵創）		
重症外傷	重症外傷 （穿透および鈍的）	赤2	四肢の神経・血管障害		
		赤2	頭部、目、頸部、胸部、腹部穿透（銃創、刺創、杵創）		
		赤2	骨盤骨折		
		赤2	受傷機転		
		赤2	深在性急性疼痛：8～10		
		赤2	生命・四肢を失うおそれがある出血		
		黄	深在性急性疼痛：4～7		
		黄	中等度、軽度の出血		
		緑	※鈍的外傷 深在性急性疼痛：＜4		
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
		部位別外傷	頭部外傷	赤2	穿透性頭部外傷（銃創、刺創、杵創）
				赤2	新たに出現した巣症状
赤2	深在性急性疼痛：8～10				
赤2	生命を失うおそれがある出血				
赤2	受傷機転				
黄	直近の意識消失の病歴				
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。				
顔面外傷	赤2			受傷機転	
	赤2		顔面骨折		
	赤2		穿透性外傷、化学熱傷（※眼外傷）		
	赤2		突然の視力消失（※眼外傷）		
	赤2		※眼外傷 深在性急性疼痛：8～10		
	赤2		生命を失う恐れがある鼻出血		
	黄		中等度、軽度の鼻出血		
	黄		※眼外傷 深在性急性疼痛：4～7		
	黄		表在性急性疼痛：8～10		
	緑		※眼外傷 深在性急性疼痛：＜4		
	緑		表在性急性疼痛：4～7		
	その他		出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
頭部外傷	赤2		知覚障害、神経学的異常所見		
	赤2		嘔声・嚥下障害、呼吸障害		
	赤2		穿透性頭部外傷（銃創、刺創、杵創）		
	赤2		深在性急性疼痛：8～10		
	赤2		生命を失う恐れがある出血		
	赤2	受傷機転			
	黄	深在性急性疼痛：4～7			
	黄	中等度、軽度の出血			
	緑	表在性急性疼痛：＜4			
	その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。			
	胸部・腹部単独外傷 （穿透）	赤2	穿透性胸部・腹部外傷（銃創、刺創、杵創）		
		赤2	深在性急性疼痛：8～10		
赤2		生命を失う恐れがある出血			
赤2		受傷機転			
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。				
胸部・腹部単独外傷 （鈍的）	赤2	深在性急性疼痛：8～10			
	赤2	生命を失う恐れがある出血			
	赤2	受傷機転			
	黄	深在性急性疼痛：4～7			
	黄	表在性急性疼痛：8～10			
	黄	中等度、軽度の出血			
	緑	深在性急性疼痛：＜4			
	緑	表在性急性疼痛：4～7			
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。				

	四肢切断	赤1	1肢切断（新鮮）	
		赤2	1指切断（新鮮）	
		赤2	深在性急性疼痛：8～10	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	上肢・下肢外傷	赤2	開放骨折、神経・血管障害	
		赤2	コンパートメント症候群	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		黄	骨折を伴う中等度、軽度の出血	
		黄	神経障害のある、ギプスによる表在性急性疼痛：8～10	
		緑	神経障害のない、ギプスによる表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
生殖器外傷	赤2	生命を失う恐れがある出血		
	黄	深在性急性疼痛：4～7		
	黄	中等度、軽度の出血		
	その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
外傷一般	裂創・挫創・杓創、擦過傷	赤2	頭部、目、頸部、胸部、腹部穿通（銃創、刺創、杓創）	
		赤2	神経損傷を伴う複雑な創傷	
		赤2	重篤なアレルギー（動植物による咬・刺傷）	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		黄	中等度、軽度の出血	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
その他	異物	赤2	呼吸障害（※鼻内異物）	
		赤2	穿通性異物（※目の異物）	
		赤2	流涎、吸気性喘鳴（※気道異物）	
		赤2	嘔声、嚥下障害（※気道異物、口腔・食道異物）	
		赤2	深在性急性疼痛：8～10	
		黄	深在性急性疼痛：4～7	
		緑	深在性急性疼痛：<4	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	針刺し	赤2	感染性肝炎・HIV患者で中空針	
		黄	中空針以外の針刺し（感染性低い）	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	凍傷	赤2	冷たく脈を触れない四肢	
		黄	皮膚蒼白	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	電撃傷	赤2	明らかな皮膚損傷あり	
		黄	皮膚損傷なし	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	熱傷	赤2	熱傷>25%体表面積	
		赤2	手、足、顔面、会陰部の表層性Ⅱ度熱傷・全層性Ⅲ度熱傷	
黄		熱傷5～25%体表面積		
黄		表在性急性疼痛：8～10		
緑		<5%体表面積Ⅲ度熱傷、または<10%体表面積Ⅱ度熱傷		
緑		表在性急性疼痛：4～7		
	その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		

バイタルサインによる緊急度のめやす(小児)

呼吸数(回/分)	未満	以上-未満	以上-未満	以上-以下	より大きく-以下	より大きく-以下	より大きい
	赤1	赤2	黄	緑	黄	赤2	赤1
3か月未満	<10	10~20	20~30	30~60	60~70	70~80	>80
3か月以上6か月未満	<10	10~20	20~30	30~60	60~70	70~80	>80
6か月以上1歳未満	<10	10~17	17~25	25~45	45~55	55~60	>60
1歳以上3歳未満	<10	10~15	15~20	20~30	30~35	35~40	>40
3歳以上6歳未満	<8	8~12	12~16	16~24	24~28	28~32	>32
6歳以上10歳未満	<8	8~10	10~14	14~20	20~24	24~26	>26
10歳以上	<10						>=30

心拍数(回/分)	未満	以上-未満	以上-未満	以上-以下	より大きく-以下	より大きく-以下	より大きい
	赤1	赤2	黄	緑	黄	赤2	赤1
3か月未満	<40	40~65	65~90	90~180	180~205	205~230	>230
3か月以上6か月未満	<40	40~63	63~80	80~160	160~180	180~210	>210
6か月以上1歳未満	<40	40~60	60~80	80~140	140~160	169~180	>180
1歳以上3歳未満	<40	40~58	58~75	75~130	130~145	145~165	>165
3歳以上6歳未満	<40	40~55	55~70	70~110	110~125	125~140	>140
6歳以上10歳未満	<30	30~45	45~60	60~90	90~105	105~120	>120
10歳以上	<50						>=120

体温	赤2	黄
4か月未満	36.0℃未満 38.0℃以上	
4か月以上	32.0℃未満	32.0℃以上 36.0℃以下

※38.0℃以上を発熱とする

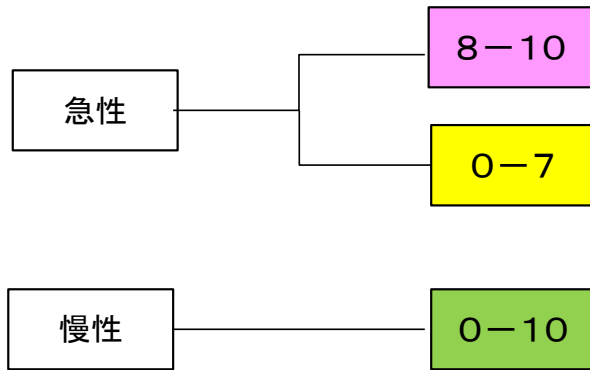
意識	
赤1	GCS3-8、JCS100-300
赤2	GCS9-13、JCS2-30
黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)

小児GCS

	小児	乳児	
開眼	1	開眼せず	開眼せず
	2	痛み刺激で開眼	痛み刺激で開眼
	3	声かけで開眼	声かけで開眼
	4	自発開眼	自発開眼
言葉	1	発声せず	声を出さない
	2	理解できない音声	痛み刺激でうめき声
	3	不適切な言葉	痛み刺激で泣く
	4	混乱した会話	不機嫌、啼泣
	5	見当識良好	機嫌よく喃語を喋る
	※挿管・気切時はT表示し、1点とする	※挿管・気切時はT表示し、1点とする	
運動	1	動かさない	動かさない
	2	異常な四肢の伸展反応	異常な四肢の伸展反応
	3	異常な四肢の屈曲反応	異常な四肢の屈曲反応
	4	痛み刺激で逃避反応	痛み刺激で逃避反応
	5	疼痛部位の認識可能	触れると逃避反応
	6	命令に従う	正常な自発運動

小児疼痛スケール(10まで数えることができ、分類と配列概念が理解できる小児対象)

痛みがない状態を0として、今までにない最悪の痛みを10とした場合の痛みの程度を表現してもらう。



【急性疼痛】
 新たに出現した疼痛であり、慢性疼痛よりも危険な状態であると診断される可能性が高い疼痛。

【慢性疼痛】
 同じようなパターンの症状で繰り返される疼痛症候群である。小児の慢性あるいは頻回再発する疼痛の原因。

小児疼痛スケール(乳児、幼児、未就学児、認知障害児)

乳児や幼児等の急性疼痛を行動観察により評価するツールで、傷病者を観察し、すべてのカテゴリについて合計しスコアを算出する。

カテゴリ	0	1	2
表情	表情の異常はなし。または、笑顔である。	時々顔をゆがめたり、しかめ面をしている。視線が合わない。周囲に関心をもたない。	頻回または持続的に科学を震わせている。歯を食いしばっている。
足の動き	正常な姿勢で、落ち着いている。	落ち着かない、じっとしていない、ぴんと張っている。	蹴る動作をしたり足を縮こませたりしている。
活動性	おとなしく横になっている。正常な姿勢、容易に動くことができる。	身もだえしている。前後(左右)に体を動かしている。緊張状態。	弓状に反り返っている。硬直または痙攣している。
鳴き声	泣いていない。(起きているか眠っている)	うめき声を出す、または、しくしく泣いている、時々苦痛を訴える。	泣き続けている、悲鳴を上げている、または、むせび泣いている、頻回に苦痛を訴える。
あやしやすさ	満足そうに落ち着いている。	時々触れてあげたり、抱きしめてあげたり、話しかけてあげたり、気を紛らわすことで安心する。	あやせない、苦痛を取り除けない。

小児の共通観察項目

呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする	
発熱	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観

早産	赤2	妊娠36週未満の新生児
疼痛	赤2	急性(8~10)
	黄	急性(0~7)
	緑	慢性(0~10)
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎
	赤2	多量の性器出血
	赤2	腸腰筋および腎部
	赤2	四肢のコンパートメント症候群
	赤2	骨折および脱臼
	赤2	深い裂創・挫創
	赤2	その他の止血困難な状態
	黄	鼻腔(鼻出血)
	黄	口腔(歯肉を含む)
	黄	関節(関節血腫)
	黄	月経過多
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創
	判定なし	該当なし
	受傷機転	赤2
赤2		車外に放出された車両事故
赤2		車の高度な損傷を認める車両事故
赤2		車に轢かれた歩行者・自転車事故
赤2		5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
赤2		運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
赤2		高所からの墜落(身長2~3倍以上を目安)
赤2		体幹部が挟まれた
赤2		機械器具に巻き込まれた
判定なし		該当なし

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P1	呼吸困難(小児)
症状例	「息が苦しい」、「呼吸が苦しい」、「息苦しい」、「肩で息をしている」、「息ができない」、 「ゼーゼーいっている」、「ヒューヒューいっている」、「息をするときに音がする」、 「痰(たん)がからんだような音がする」、「喘息なんですけど…」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱があるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P2	動悸(小児)
症状例	「ドキドキする」、「動悸がする」、「脈が速い」、「脈がとぶ」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	心原性の胸痛
特異項目	赤2	致死性不整脈の病歴
特異項目	黄	急性発症、現在も持続している状態
特異項目	緑	動悸の既往、現在は軽快している状態
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P3	意識障害(小児)	
症状例	「反応がない」、「意識がないようだ」、「変なことを言う」、「うわごとを言っている」、「いつもと様子が違う」、「気を失った」、「気を失いかけた」など	
大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
判定なし	(該当なし)	
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

受傷機転	赤2	同乗者の死亡した車両事故
	赤2	車外に放出された車両事故
	赤2	車の高度な損傷を認める車両事故
	赤2	車に轢かれた歩行者・自転車事故
	赤2	5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故
	赤2	運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故
	赤2	高所からの墜落(身長2~3倍以上を目安)
	赤2	体幹部が挟まれた
	赤2	機械器具に巻き込まれた
	判定なし	該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	高度脱水(ショック状態を呈す)
特異項目	赤2	低血糖症状がある場合
特異項目	赤2	不明の薬物
特異項目	赤2	逃走の恐れがあるまたは安全が確保できない状態
特異項目	赤2	自殺企図または明確な計画がある
特異項目	赤2	項部硬直
特異項目	赤2	頭痛
特異項目	赤2	嘔吐
特異項目	赤2	低酸素環境
特異項目	赤2	高温/低温環境
特異項目	赤2	毒性のある原因物質(毒物・医薬品(強酸・強アルカリ・石油製品・青酸化合物)・覚醒剤、麻薬・毒性のある植物・農薬・家庭用品(防虫剤・殺鼠剤等)・有毒ガス)
特異項目	黄	自殺念慮はあるが具体的計画のないもの
特異項目	緑	薬物過量摂取
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P4	けいれん(小児)
症状例	「ひきつけ」、「てんかん」、「がたがた震えている」、「泡を吹いている」、「白目をむいている」、「けいれんを起こしている」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力のため、会話できない状態(単語のみ話せる状態)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
判定なし	該当なし	
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	該当なし
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱があるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	痙攣持続状態
特異項目	赤2	痙攣停止直後の状態
特異項目	黄	症状軽快、意識レベル正常
	緑	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類（救急現場プロトコル）

P5	頭痛（小児）
症状例	「頭が痛い」、「後頭部が痛い」、「頭痛がするとあって倒れた」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態（単語のみ含む）
	赤1	異常呼吸（不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など）
	赤1	上気道閉塞（嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴）
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用（肩で息をしている等）
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力（様）呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	（該当なし）
循環	赤1	ショックの徴候（蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等）
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化（混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等）
	黄	新たに出現した軽度の意識障害（GCS14・JCS1）
	緑	慢性的な軽度の意識障害（GCS14・JCS1）
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満：発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満：発熱がある免疫不全患者（好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者）
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上：免疫不全患者（好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者）
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子（第2段階）】：1次補足因子（第1段階）で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	突然発症の激しい頭痛 急性（8～10）
	黄	それ以外の急性頭痛 急性（0～7）
	緑	慢性・再発性の頭痛 慢性（0～10）

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	視力障害
特異項目	赤2	視力障害および眼の疼痛

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P8	発熱(小児)
症状例	「熱が出た」、「熱がある」、「体が熱い」、「悪寒がする」、「震えている」、「熱が下がらない」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
判定なし	(該当なし)	
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする	
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	点状出血
------	----	------

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P9	腹痛(小児)
症状例	「おなかが痛い」、「みぞおちが痛い」、「下腹が痛い」、「わき腹が痛い」、「おなかが張る」、「足の付け根が痛い」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする	
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	急性の激しい腹痛 急性(8~10)
	黄	それ以外の急性の腹痛 急性(0~7)
	緑	慢性の腹痛 慢性(0~10)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤1	高度脱水(ショック状態を呈す)
特異項目	赤2	腹壁緊張または圧痛
特異項目	赤2	腹膜刺激症状
特異項目	赤2	高度貧血
特異項目	赤2	グル音消失
特異項目	赤2	有響性金属性グル音
特異項目	赤2	妊娠の可能性あるいは人工妊娠中絶後
特異項目	赤2	吐下血
特異項目	赤2	腹部の異常膨隆
特異項目	赤2	頻回の嘔吐

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P10	嘔気・嘔吐(小児)
症状例	「吐いた」、「吐いている」、「吐きそう」、「気持ちが悪そう」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
		判定なし
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	活動性の多量出血
特異項目	赤2	頻回の嘔吐あるいは胆汁様の嘔吐
特異項目	黄	コーヒー残渣様吐物・下血
特異項目	黄	繰り返す嘔吐
特異項目	緑	慢性的な嘔吐・嘔気、バイタルサイン正常
脱水症	赤2	口腔・舌の乾燥
	赤2	ツルゴール(皮膚の張り・弾力)の減少や皮膚乾燥
	赤2	尿量減少
	黄	口渇感の増大(バイタルサイン正常)
	黄	濃縮尿の症状(バイタルサイン正常)
	黄	水分摂取量の減少(バイタルサイン正常)
	黄	経口摂取困難
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P12	しびれ/麻痺(小児)	
症状例	「手足がしびれる」、「手足の感覚がおかしい」、「手足がマヒしている」、「手足が動かない」など	
大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱があるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	急性
	黄	急性(急性の弱～中等度の痛み)
	判定なし	該当なし
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎
	赤2	多量の性器出血
	赤2	腸腰筋および臀部
	赤2	四肢のコンパートメント症候群
	赤2	骨折および脱臼
	赤2	深い裂創・挫創
	赤2	その他の止血困難な状態
	黄	鼻腔(鼻出血)
	黄	口腔(歯肉を含む)
	黄	関節(関節血腫)
	黄	月経過多
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創
	判定なし	該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	発症<3時間
特異項目	黄	発症>3時間または症状軽快
特異項目	黄	新たに発症した知覚麻痺・知覚異常
特異項目	緑	慢性的な知覚麻痺・知覚異常
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類（救急現場プロトコル）

P13	腰痛(小児)
症状例	「腰が痛い」、「ぎっくり腰」、「腰痛」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱があるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	急性(8~10)	
	黄	急性(0~7)	
	緑	慢性(0~10)	
	判定なし	該当なし	
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頭部	
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎	
	赤2	多量の性器出血	
	赤2	腸腰筋および腎部	
	赤2	四肢のコンパートメント症候群	
	赤2	骨折および脱臼	
	赤2	深い裂創・挫創	
	赤2	その他の止血困難な状態	
	黄	鼻腔(鼻出血)	
	黄	口腔(歯肉を含む)	
	黄	関節(関節血腫)	
	黄	月経過多	
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創	
		判定なし	該当なし
	受傷機転	赤2	同乗者の死亡した車両事故
赤2		車外に放出された車両事故	
赤2		車の高度な損傷を認める車両事故	
赤2		車に轢かれた歩行者・自転車事故	
赤2		5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故	
赤2		運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故	
赤2		高所からの墜落(身長2~3倍以上を目安)	
赤2		体幹部が挟まれた	
赤2		機械器具に巻き込まれた	
		判定なし	該当なし

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状
特異項目	赤2	しびれや麻痺の症状と直腸膀胱障害
特異項目	緑	腰背部痛
特異項目	緑	腰背部・脊椎外傷、軽度の深在性疼痛
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類（救急現場プロトコル）

P14	固形物誤飲(小児)	
症状例	「何か固形物を飲み込んだ」、「食べ物のがのどにつかえた」、「のどにひっかかっている・取れない」など	
大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚥下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	急性(8~10)
	黄	急性(0~7)
	緑	慢性(0~10)

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	流涎または吸気性喘鳴
特異項目	赤2	嘔声と嚥下障害
特異項目	黄	持続する嘔吐
特異項目	緑	嚥下・呼吸の問題なし

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P15	頭・頸部外傷(小児)
症状例	「頭をぶつけた」、「落ちた」、「頭から血が出た」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼気性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
		判定なし
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

疼痛	赤2	急性(8~10)	
	黄	急性(0~7)	
	緑	慢性(0~10)	
出血性素因	赤2	頭部(頭蓋内)および頸部	
	赤2	胸部、腹部、骨盤、脊椎	
	赤2	多量の性器出血	
	赤2	腸腰筋および腎部	
	赤2	四肢のコンパートメント症候群	
	赤2	骨折および脱臼	
	赤2	深い裂創・挫創	
	赤2	その他の止血困難な状態	
	黄	鼻腔(鼻出血)	
	黄	口腔(歯肉を含む)	
	黄	関節(関節血腫)	
	黄	月経過多	
	黄	擦過傷および浅い裂傷・挫創	
	判定なし	該当なし	
	受傷機転	赤2	同乗者の死亡した車両事故
		赤2	車外に放出された車両事故
赤2		車の高度な損傷を認める車両事故	
赤2		車に轢かれた歩行者・自転車事故	
赤2		5m以上もしくは30Km/H以上の車に跳ね飛ばされた歩行者・自転車事故	
赤2		運転手が離れていたもしくは30Km/H以上のバイク事故	
赤2		高所からの墜落(身長2~3倍以上を目安)	
赤2		体幹部が挟まれた	
赤2		機械器具に巻き込まれた	
判定なし		該当なし	

【2次補足因子】※1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

特異項目	赤2	新たに出現した巣症状
特異項目	赤2	知覚障害、神経学的異常所見
特異項目	赤2	嘔声・嚥下障害
特異項目	黄	意識消失の病歴
特異項目	黄	長時間の脊柱固定
特異項目	緑	意識消失を認めない
	白	すべての観察項目に該当しない

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P16	外傷(小児)	
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦の訴え
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
	判定なし	(該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した意識異常(GCS14またはJCS1)
	緑	慢性的な意識異常(GCS14またはJCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱はあるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児
疼痛	赤2	急性 8~10
	黄	急性 4~7
	緑	急性 0~3

【1次補足因子（第2段階）】第1次補足因子で緊急度「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に観察する症候に特異な症状等

受傷部位		緊急度	観察内容
共通	外傷共通	赤2	頭部、顔面（目）、頸部、胸部、腹部穿透外傷（銃創、刺創、杵創）
重症外傷	重症外傷 （穿通および鈍的）	赤2	四肢の神経・血管障害
		赤2	頭部、目、頸部、胸部、腹部穿通（銃創、刺創、杵創）
		赤2	骨盤骨折
		赤2	受傷機転
		赤2	深在性急性疼痛：8～10
		赤2	生命・四肢を失うおそれがある出血
		黄	深在性急性疼痛：4～7
		黄	中等度、軽度の出血
		緑	※鈍的外傷 深在性急性疼痛：＜4
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。
		部位別外傷	頭部外傷
赤2	新たに出現した巣症状		
赤2	深在性急性疼痛：8～10		
赤2	生命を失うおそれがある出血		
赤2	受傷機転		
黄	直近の意識消失の病歴		
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
顔面外傷	赤2		
	赤2		顔面骨折
	赤2		穿通性外傷、化学熱傷（※眼外傷）
	赤2		突然の視力消失（※眼外傷）
	赤2		※眼外傷 深在性急性疼痛：8～10
	赤2		生命を失う恐れがある鼻出血
	黄		中等度、軽度の鼻出血
	黄		※眼外傷 深在性急性疼痛：4～7
	黄		表在性急性疼痛：8～10
	緑		※眼外傷 深在性急性疼痛：＜4
	緑		表在性急性疼痛：4～7
	その他		出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。
頭部外傷	赤2		知覚障害、神経学的異常所見
	赤2		嘔声・嚥下障害、呼吸障害
	赤2		穿通性頭部外傷（銃創、刺創、杵創）
	赤2		深在性急性疼痛：8～10
	赤2		生命を失う恐れがある出血
	赤2		受傷機転
	黄		深在性急性疼痛：4～7
	黄		中等度、軽度の出血
	緑		表在性急性疼痛：＜4
	その他		出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。
胸部・腹部単独外傷 （穿通）	赤2		穿通性胸部・腹部外傷（銃創、刺創、杵創）
	赤2		深在性急性疼痛：8～10
	赤2		生命を失う恐れがある出血
	赤2		受傷機転
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
胸部・腹部単独外傷 （鈍的）	赤2	深在性急性疼痛：8～10	
	赤2	生命を失う恐れがある出血	
	赤2	受傷機転	
	黄	深在性急性疼痛：4～7	
	黄	表在性急性疼痛：8～10	
	黄	中等度、軽度の出血	
	緑	深在性急性疼痛：＜4	
	緑	表在性急性疼痛：4～7	
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		

	四肢切断	赤1	1肢切断（新鮮）	
		赤2	1指切断（新鮮）	
		赤2	深在性急性疼痛：8～10	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	上肢・下肢外傷	赤2	開放骨折、神経・血管障害	
		赤2	コンパートメント症候群	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		黄	骨折を伴う中等度、軽度の出血	
		黄	神経障害のある、ギプスによる表在性急性疼痛：8～10	
		緑	神経障害のない、ギプスによる表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
生殖器外傷	赤2	生命を失う恐れがある出血		
	黄	深在性急性疼痛：4～7		
	黄	中等度、軽度の出血		
	その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。		
外傷一般	裂創・挫創・杓創、擦過傷	赤2	頭部、目、頸部、胸部、腹部穿通（銃創、刺創、杓創）	
		赤2	神経損傷を伴う複雑な創傷	
		赤2	重篤なアレルギー（動植物による咬・刺傷）	
		赤2	生命・四肢を失う恐れがある出血	
		黄	中等度、軽度の出血	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
その他	異物	赤2	呼吸障害（※鼻内異物）	
		赤2	穿通性異物（※目の異物）	
		赤2	流涎、吸気性喘鳴（※気道異物）	
		赤2	嘔声、嚥下障害（※気道異物、口腔・食道異物）	
		赤2	深在性急性疼痛：8～10	
		黄	深在性急性疼痛：4～7	
		緑	深在性急性疼痛：<4	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	針刺し	赤2	感染性肝炎・HIV患者で中空針	
		黄	中空針以外の針刺し（感染性低い）	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	凍傷	赤2	冷たく脈を触れない四肢	
		黄	皮膚蒼白	
		黄	表在性急性疼痛：8～10	
		緑	表在性急性疼痛：4～7	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	電撃傷	赤2	明らかな皮膚損傷あり	
		黄	皮膚損傷なし	
		その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。	
	熱傷	赤2	熱傷>25%体表面積	
		赤2	手、足、顔面、会陰部の表層性Ⅱ度熱傷・全層性Ⅲ度熱傷	
黄		熱傷5～25%体表面積		
黄		表在性急性疼痛：8～10		
緑		<5%体表面積Ⅲ度熱傷、または<10%体表面積Ⅱ度熱傷		
緑		表在性急性疼痛：4～7		
その他	出血性素因、過去に血が止まりにくい、抗凝固薬などの服用がある場合は、緊急度を1段階上げる。			

症候別 緊急度分類 (救急現場プロトコル)

P17	下痢(小児)
症状例	「下痢が続く」など

大項目	緊急度	観察内容
呼吸	赤1	チアノーゼ
	赤1	過度の呼吸努力により、会話できない状態(単語のみ含む)
	赤1	異常呼吸(不規則な呼吸・陥没呼吸・鼻翼呼吸・うめき声など)
	赤1	上気道閉塞(嚔下障害、流涎、弱々しい声、発語不能、努力性呼吸および呼吸性喘鳴)
	赤1	ぐったりしている、または、うつろ
	赤1	呼吸音の左右差
	赤2	過呼吸
	赤2	呼吸補助筋の使用(肩で息をしている等)
	赤2	呼気の延長
	黄	呼吸苦
	黄	労作時息切れ
	黄	努力(様)呼吸
	黄	文章単位で会話可能
	黄	頻回の咳嗽
		判定なし (該当なし)
循環	赤1	ショックの徴候(蒼白・虚脱・冷汗・脈拍触知不能・呼吸困難等)
	赤1	起立性失神
	赤2	尿量減少
	黄	バイタルサインの異常を伴う嘔吐・下痢・出血
	判定なし	バイタルサイン正常
意識	赤1	除脳硬直・除皮質硬直様
	赤1	痙攣持続
	赤1	意識レベルの進行性の増悪
	赤1	舌根沈下
	赤2	意識状態と行動の変化(混乱・不穏・異常な興奮・異常な不機嫌等)
	黄	新たに出現した軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	緑	慢性的な軽度の意識障害(GCS14・JCS1)
	判定なし	認知ができる状態。人、場所、時に対する見当識障害を評価。年齢相当のやり取りをする
体温	赤2	4か月未満:発熱がある
	赤2	4か月以上4歳未満:発熱がある免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	赤2	発熱があり、具合悪そうな外観
	黄	発熱はあるが、具合良さそうな外観
	赤2	4歳以上:免疫不全患者(好中球減少症、臓器移植患者、ステロイド投与患者)
	黄	発熱があり、具合悪そうな外観
	緑	発熱があるが、具合良さそうな外観
早産	赤2	妊娠36週未満の新生児

【1次補足因子(第2段階)】:1次補足因子(第1段階)で「赤1」及び「赤2」に判定されなかった場合に、観察する項目

脱水症	赤2	口腔・舌の乾燥
	赤2	ツルゴール(皮膚の張り・弾力)の減少や皮膚乾燥
	赤2	尿量減少
	黄	口渇感の増大(バイタルサイン正常)
	黄	濃縮尿の症状(バイタルサイン正常)
	黄	水分摂取量の減少(バイタルサイン正常)
	黄	経口摂取困難
特異項目	黄	血性下痢
特異項目	緑	いずれにも該当しない下痢